



フォーシーズン南34条で発生しました新型コロナ関連の経過報告

ご家族様をはじめ、多くの方にご心配をおかけしましたフォーシーズン南34条での新型コロナ感染について、ようやく終息となりました。つきましては、感染から終息までの経過をお知らせすることにより、ご家庭や他医療機関および施設におきまして感染防止や対処のお役に立つのでは、と考え報告させていただく次第です。

なお、11月末からの感染拡大となりましたので、残念ながら最もイベントが多い年末年始のお写真はほとんどありません。そのため、今回の春夏秋冬では記事のほとんどが新型コロナ関連のご報告となってしまう、華やかさのない記事になってしまいましたことをお詫びいたします。何とぞご理解いただけましたら幸いです。

(個人情報保護のため、感染された利用者様、職員のお名前、ユニット名などは伏せさせていただきます)

感染の始まり

11月の末に一人の利用者様に38℃台の発熱症状が現れました。尿路感染の兆候はなく、痰がらみなどの上気道症状はもともとあったため解熱剤投与にて経過観察、翌日にも解熱認めず、新型コロナの抗原検査を実施、陽性が判明しました。当初は同一ユニット内(以降、ユニット①と記載します)で発熱者は該当利用者様以外に認めませんでした。同日にユニット④の職員が発熱と風邪症状により陽性確定、また看護職員も同様の経過で陽性確定となりました。直ちに事前に取り決めておりました感染対策およびシミュレーションに沿って感染防止対策の実施を行い、陽性確定の利用者様は個室対応、該当職員は療養・経過観察のため7日間の出勤停止としました。しかしながら翌日には隣接するユニット②で発熱の利用者様が1名発生、抗原検査にて陽性が確定しました。

この時点で新型コロナ感染者は利用者様2名、職員2名でした。

陽性が確認された職員への聞取りにて、勤務時間での介助や処置に入った対象の利用者様を確認した結果、ユニット①②にて多数の濃厚接触者が判明し、特に注意して経過観察としました。

【コラム】 感染前のシミュレーションと物品準備

フォーシーズン南34条では令和2年より新型コロナ発生時の感染対策を立案、令和3年には全ユニットで感染発生時のシミュレーションを検証実施していました。感染対策としては、新型コロナウィルスの基礎知識、感染の連環を断つスタンダードプリコーション、マスクやシールド、グローブ、防護服の着脱方法、感染区域と非感染区域のゾーニングなどです。シミュレーションでは新型コロナ感染が発生したと仮定し、上記の実施を1日行うというものです。

ゾーニングについて。フォーシーズン南34条は10人ごとのユニットとなっており、それぞれにドアがあります。そのため、陽性者が出たユニットは比較的隔離しやすい構造です。ユニット外はグリーンゾーン(クリーンな区域)、イエローゾーンは各ユニットの入り口とし、ここで防護服の着脱とします。ユニット内はレッドゾーン(感染区域)として中では防護服の着脱は行いません。当然防護服はユニットを出る際には感染性ゴミとして専用のボックスに廃棄します。

感染当初の動き

11月末にフォーシーズン南34条で初の新型コロナ感染者が発生した段階から、該当ユニットでは全利用者様の個室対応を実施、1日2回の検温実施、一連の防護服(キャップ・シールド・マスク・グローブ)着用、該当ユニット職員の動線については、1階ホールの面会交流室を更衣室として正面玄関からの出入り、食事および休憩はユニット内として他職員との接触を避けました。また、リハビリ職員は全ユニットの利用者様との接触は避けられないため、個別リハビリは一旦休止としました。看護職員につきましては業務上、全ユニットの利用者様と接触するため、感染ユニットと非感染ユニットの担当を分けました。清掃スタッフについても同様のためユニット職員が実施、1日3回の消毒作業、食器類はすべて使い捨ての物に変更、残飯を含めて感染性のゴミは専用のボックスに保管し、3日間の保管の後、業者に渡すこととしました。すでに職員は看護師を含め2名の減による勤務シフトの変更、感染予防の実施、清掃業務などにより職員は多忙を極めました。感染当初の11月末の時点では、誰もが躍起となって感染を封じ込めようと最大限の努力をしました。しかし現実さらなる感染拡大が待っていました……。

【コラム】 当施設の検査体制

フォーシーズン南34条で使用している検査キットは医療用抗原キットです。PCR検査より若干精度は下がりますが、検査後15分で結果が出るため、迅速な対応が可能です。検査対象としては、発熱などの症状がある場合・ショートステイを含め新規入所の場合(医療機関からの入所では退院時に行うため、原則家庭から入所される場合)・職員に同様の症状がある場合、などに実施しています。

止められない感染拡大

ユニット①、ユニット②の感染した利用者様2名は経過良好、7日間の経過観察期間を終えようとしていました。一方、その間には該当ユニットの職員が2名陽性となり、看護職員も2名陽性と増加しました。そして12月7日にユニット②では発熱者が多数出現、一気に8人の利用者様が陽性確認、12月10日には1名の陽性確認が追加され、ユニット10名中、全員が感染となってしまいました。さらに隣接する①ユニットでも12月17日までに利用者様が全員感染、12月9日からは同一階のユニット③、ユニット④、他階のユニット⑤でも陽性確認者が現れ始めました。利用者様の感染に並行するように、職員も次々と陽性となりました。この記事を書いている現時点で最終的な新型コロナ感染者の人数は、利用者様36名、職員20名の合計56名となりました。またユニット別ではユニット①②が全員感染、ユニット③④が約半数の感染、ユニット⑤は半数以上の感染、ユニット⑥は1名の感染、ユニット⑦⑧のみ感染者ゼロでした。

症状の経過について

全利用者様を通して、重篤な症状を呈する方はおりませんでした。感染初期に39℃台まで体温が上昇する症例はありましたが、多くは37℃台後半から38℃台前半で経過し、2日以降は36℃台後半で経過するケースが多かったです。その他症状については鼻汁・軽度の咳、倦怠感程度で経過するケースがほとんどでした。少数ですが無症状のケースもありました。

陽性となった利用者様に対する薬物療法としては、解熱剤および去痰剤のみで軽快することが多く、1例のみ点滴による補液を行いました。いずれにしても対症療法しか行えませんが、2日程度で軽快する症例がほとんどでした。また、職員の症状および経過についても同様でした。このことについては、フォーシーズン南34条では新型コロナワクチン接種が利用者様および職員のほとんどが4回目を終えており、症状の軽減につながった可能性があると考えております。また、一般的に言われるようにオミクロン株は、感染力は強いものの軽症状なことが多いということかもしれません。

崩壊しそうな勤務体制

ユニット①②では時期がずれたとはいえ約半数の介護職員が陽性となりました。介護および看護の勤務体制は夜勤を含めた変形勤務であり、夜勤の翌日は9時に夜勤明けとなるため公休を含めた当たり前の勤務体制では勤務者が不在となる勤務表となってしまいます。そのため、夜勤明け職員がそのまま日勤の勤務を行うこと、夜勤明けのまま一旦施設で仮眠をして再度夜勤に入ることもありました。一方、職員の勤務体制に関わらず利用者様の介護量は変わりません。むしろ感染による体調不良で介護量が増すケースも多く、体調確認の頻度も増えました。何より防護服を着用して動くことは予想以上に体力を消耗し、一つの介護を終えるたびにグローブを取り換えることは普段より介護の時間がかかりました。しかし、必要な介護や看護の量を減らすわけにはいきません。一部のリハビリ職員、事務職員もユニットでの勤務シフトに入り介護看護体制の確保に尽力しました。全利用者が陽性となったユニット①②では、療養中でも勤務可能な職員は7日間の経過観察期間を待たずに勤務に入らざるを得ない場合もありました。

利用者様の生活状況について

陽性者が確認されたユニットでは、トイレ以外の生活は居室内となりました。そのためリハビリは一旦休止、他利用者様との交流も短期間とはいえ途絶してしまいました。そんな中でも自主的に運動を行う利用者様や訪室するたびに職員へ労いの言葉をかけてくださる方も多かったです。一方、早期に全員が感染者となってしまったユニット①②では居室対応を解除し、いつも通りリビングで過ごすこととしました。居室対応が解除された際はお互いの安否を確認しながら無事だったことを喜び、いつもより談話に花が咲いていたようです。幸いに全ユニットを通して身体機能や認知機能が低下したケースは認められませんでした。また、ちょうどクリスマス時期とも重なり、各ユニットではできる範囲で飾り付けを行うことで季節感を楽しめるように配慮しました。

そして終息へ

新型コロナに罹患した場合は、一般的に3か月間は強い免疫を獲得すると言われ、短期間で再感染することはありません。そのため、発症から7日間が経過した後は感染の危険性はなくなります。感染の2周目はないため、施設のようなある程度閉ざされた空間では、感染者数が上限に達するとあとは終息を待つだけとなります。

(逆説的には閉鎖された空間であるため感染拡大が急速であります)

実際に日数が進むにつれ、経過観察期間を終えた利用者様が増えだし、並行して経過観察期間を終えて勤務に復帰する職員も増えました。この記事を書いている1月4日をもって、最終感染者の経過観察期間を無事終えることができました。その間、38日と長く過酷な道のりでした。

まとめ

令和2年度から近隣の福祉施設や医療機関でもクラスター発生の報告を受け戦々恐々としていましたが、とうとうフォーシーズン南34条でも同様のこととなりました。世界の感染状況を考えると、いつフォーシーズン南34条で発生してもおかしくないと覚悟をしながら、行政と連携しつつ可能な限りの感染対策を行ってきました。これまで少数の職員が陽性となったことはありましたが、何とか利用者様への感染は回避できておりました。いずれは、と覚悟を決めていたつもりでしたが、いざ利用者様の感染罹患が確認された時は大きな衝撃でした。また、実際の場面では想像以上の大変さを痛感しました。これは利用者様の負担やご家族様の心労についても同様です。一方、平時からシミュレーションを含めた感染対策や物品の準備を行っていたことで大きな混乱を避けることができました。推測となりますが、今回の最初の感染経路については発生時期に当てはめると、職員が感染→利用者2名が感染→関わる職員と利用者間でお互いに感染しあうという、いわゆるピンポン感染となった可能性があります。当然職員自身も平時から感染予防としてマスクやゴーグル、グローブの着用、消毒作業の徹底などを心がけており、初期の感染段階からはゾーニングや防護服着用と対策をしてきました。それでも感染の発生・拡大を防げないオミクロン株の感染力の強さ、少数の職員が多数の利用者を介助しなければならない高齢者施設の構造・人員配置を考えると、新型コロナを完全に防ぐことは陰圧感染隔離室などを用いない限り不可能ではないかと考えます。そのため、感染発生を前提に平時からの対策や物品の準備などが重要だと考えます。

皆様のご協力をいただき、乗り越えられました

最後となりますが、経過報告などが遅れてしまうなど、ご家族の方々には大変なご心配をおかけしましたこととお詫び申し上げますとともに、利用者様への差し入れや洗濯物をお渡しの遅延に対するご協力、職員への労いなど、たくさんのご支援をいただきましたことのお礼を申し上げます。また、過酷な状況でも、終息まで利用者様に寄り添ってくれました関係職員にも感謝いたします。



令和4年の写真総集

新型コロナのクラスター発生という事件もありましたが、春夏秋冬を読んでくださる方々に少しでも明るい気持ちになっていただきたく、令和4年の行事や日常生活の写真を集めてお届けします！

今年もどうぞよろしくお願いいたします！！

敬老の日
2022

編集後記

春夏秋冬18号の推敲も終えることができました現在、最後の経過観察者の陰性が確認でき、本日をもって新型コロナの隔離体制は解除となりました。多くの方々によるご支援には本当に感謝しております。ありがとうございました。 肥後